

■ウインド Etc. (風のエトセトラ)

アフリカの風

ー風力発電がアフリカを変える?ー

株式会社P & I PRディレクター 富樫 純子

吹かれるままに

飛行機に乗るのが怖かったのと、ひねくれものの性格からでしょうか、はじめて外国に行ったのは約10年前。ものすごく遅いデビューです。

海外はおろか、隣の街にも、東京にも行ったことがないよ… というようなお婆ちゃんになりたいと思っていました。たくさんのことを学び知らなくても、真実を知ることには出来る… そんな風に思っていました。

だのにドイツへ

そんなこんな私を見るにみかねてでしょうか…ある方が、ドイツにいい男がいるから会いに行け!と言うのです。いや面倒ですよ…と断ると、羊羹と煮干を持ってきてくださいという手紙が来ました。そうか…これはもしかしてお見合い(?)、それにしても一時代前のリクエストに困惑。東京で生まれ育つと出汁は昆布か鰹節、煮干はあまり使いません。煮干は味噌汁と作るのに必要だとか。羊羹だって嫌いではないが、自分で買ったことはない。

旅行のような旅行じゃないきっかけが、はじめての海外体験でした。考えてみれば、この時代はまだFAXを送っていました。

五大陸制覇への道

一度、飛んでしまえば、あとは吹かれるまま。飛行機は嫌いでも、なんとか旅にでるようになりました。働きながら休暇をとって行く旅は限られますが、建物、言葉、食べ物、街、空気…すべてが異なるその国々の暮らしや生活を垣間見るのは、心の中の世界を広げてくれるものになりました。そこで思いついたのが、「五大陸に行ってみよう！」

アフリカ大陸へ

ドバイ経由で比較的短時間で行かれるようになったのを知り、子供のころの愛読書「野生のエルザ」の国へ行くことに。

ガイドブックには街を歩くな危険だと書いてある、機内で知り合った現地在住の日本人に

も強盗はあたり前、命に危険がなければよいですよ、気をつけて…と脅されて降り立ったナイロビ。黒人ばかり、何か違う、ワイルド!

姫のサファリ体験

ヨーロッパ人仕様のホテルに泊まり、ルオ人がドライバーとガイドをしてくれますから、お姫様旅行のようなものです。そんな



な旅でも、感じるものはとても大きかった!国立公園に保護されている野生動物たちは、走る!走る!走る!キリンもゾウも、シマウマも、たくさん!たくさん!……動物好きの私にはたまらない光景です。またそこには、食物連鎖の生き物の世界が、あたり前のように広がっており、私たち人間も含めて生物であるあることを改めて気づかされたのでした。

何を感じるか何が出来るか

ただひたすら悪路を車で走る……そこから見るケニヤの人たちの生活。夜の真っ暗な中に突然現れた光はフラワーファクトリー、道路脇で少年が売っているチョコレート、どこに在かわからないほど遠くの学校へ歩く子供たち…



今年、横浜で開かれた TICAD (アフリカ開発会議) が話題となりました。「持続可能な開発のための環境とエネルギー」閣僚会議では、

風力発電に関する言及もありました。

でも、貧困や地球環境、援助などという言葉、安易には決して使いたくない。自然の一部に、今たまたまいる、人間としてあたり前の生活を、生物体として生きてく力みたいなことのエネルギーを感じました。明るく笑え!そうすりゃ、どうにかなるさって!